

平成 30 年 11 月
第 388 号



フルーインパレス 秋晴れの空を飛ぶ
(10/8 大湫公民館上空)



ウォーキングジャパンの皆さん (丸森)

“ 大湫宿は大賑わい ”

おもな内容

- ・トマト栽培 … P2
- ・旧大湫小学校 … P3
- ・交通安全教室 … P4
- ・秋祭り, 釜中清掃 … P5
- ・赤坂中学校から … P6

転職しトマト栽培農家に

足立 寛

私がトマト栽培に至

るまでは、サラリーマン
 でした。サラリーマン時
 代は仕事をしていても満
 足を得ることがありませ
 んでした。転職を考えて
 いるときに海津市で岐阜
 県が開発した最新技術で
 トマト栽培ができるとい
 う事を聞き、体験をして
 きました。

農業をやったことが
 ない人でも14か月の研



中日新聞掲載

病気の苗を早く見つけ
 るのはなかなか難しいと
 苦勞を語る。
 十月末から十月初旬に
 初の収穫を迎える。一つの
 苗から八十一百個、十割当
 たりで三十五の生産を目
 指している。市農林課によ
 ると、市内にトマトの専業
 農家はわずか、将来的には
 「瑞浪産トマト」としての
 ブランド化も見据える。
 足立さんは妻と子一人
 妻の父母と暮らす。来生二
 月には二人の子も誕生
 する予定だ。冬が寒い瑞
 浪でもトマトが作れるこ
 とを証明し、若者が農業を自
 指すような新しい風を吹き
 込みたい。子どもにも自分
 が仕事する姿を見せられた
 らと天竺の汗をぬぐった。

修期間で一人前になれるほどしっかりと勉強できる施設だと知り、さらに見たことない栽培の仕方でもとても興味を持ち挑戦したくなりました。

海津市の研修では、トマトの栽培に適した環境づくりでいかに効率よく作業するか、さらには研修期間後、直ぐに独立できるようにハウスの設計などもやりました。

研修後は瑞浪市内(「きなあた」の近く)でトマトハウスを建て、冬春トマトを栽培しています。さらに、瑞浪市では初めての新規就農者になりました。

11月には最初のトマトが取れ始めてきます。トマトの栽培、収穫は来年の6月までやっていきます。目標は年間35t(トン)を収穫することです。

大湫のみなさんもお近くをお通りの際は気兼ねなく立ち寄ってください。



旧大湫小学校

大湫小学校の思い出

西山 美穂

たくさんの小学校の頃の思い出の中で、私はスピーチの思い出をはなそうと思います。

大湫小では定期的にスピーチ会が行われ、順番に発表の番が回って、担当の数人が全校の前でスピーチを行いました。

私はこのスピーチ会が実のところ、とても苦手でした。作文をし、暗記し、それを発表するだけのことでしたが、緊張しやすい私は毎回その番になる度、ふるえるほど緊張していました。そのため私にとってスピーチ会は早く終わってほしい時間の一つでした。

しかし、今になってみれば貴重な経験をさせてもらっていたと思います。成長する中の様々な場面で、人前で自分の話をする機会は意外と多いと思うからです。

大湫小学校は小さな学校でしたが、今回のように振り返ると私を大きく成長させてくれていたことに気付きとても感謝しています。



次回はお世話になった石神正子先生です

青色回転灯防犯パトロール 11月のパトロール予定者



11/上旬

足立 亘

奥村 寛

11/下旬

三戸憲和

渡辺貴憲

俳句

木犀もくせいの香に気付きたる朝あしたかな
頓狂とんきょうに声裏返る村芝居

友逝ゆせいきて笑顔懐かし秋夕日
白き歯の上下四本や秋裕あきあわせ

デマンド交通

利用者(大湫～日吉東部)
9月：43便 延べ100名

天野辰代

山口雪子

笑いの中で学んだ高齢者交通安全教室 10/3(水)

参加された方からの一言

- 「よかった」面白くルールを分かりやすく話してもらったので、ためになった勉強会だった。
- 話がいろいろあってよかった。今までは、押し車を押しながら歩いていた時に何も思わず歩いていたけど、話を聞いてからは気を付けて歩いている。
- 色んな話が聞けて、あっという間に時間が過ぎて楽しかった。
- 笑いながら、芝居を見ているようだったのでとても楽しかった。
- 「よかったー」交通指導員の話もよかったけど、みんなの顔が見れたのが一番よかった。
- その日は、病院の予約日だったので参加できず残念だった。
参加した人の話を聞いて、余計に残念に思った。次にまたこういう機会があったら、参加したい。

市の交通安全指導員さんの息の合った話し運び、笑いの渦の中であっという間に終わった高齢者交通安全教室。企画、計画してくださった方々に心から感謝し、次の開会を考えたいと思います。



そして、参加された皆さんが笑顔で帰っていただけたことが、何よりの成果でした。(リ・アップひよも)

リ・アップ “ひよも” だより

11月のお茶のみ会のおさそい

日 時：11月7日（水曜日）

9：30～11：00頃まで

場 所：ふれあいセンター

参加費： 50円

お待ちしております

釜戸町の牧野氏による紙芝居だよ

神明白山神社例大祭 10/7(日)



台風 25 号の影響を心配しましたが、日曜日は気温も上昇し秋祭りにもってこいの一日となりました。

神明神社・白山神社の神事も滞りなく終わり、山車や神輿が中山道大湫宿を練り歩きました。

いつも、ありがとう 釜戸中の生徒たち

10/1 (月)「地域貢献を」とボランティア活動する釜戸

中学校の皆さんが、今年も7カ所の施設で清掃活動をされました。

1学期に予定されていましたが天候の関係で中止となり、今回の実施となったとの事。

現在、大湫町から8名の生徒さんが通学していますが、今回は講堂と2階会議室の窓ふきをしてくださいました。



(釜戸中 受賞者)

◎岐阜県青少年美術展 少年の部

入選 1年 寺倉未夕伽、3年 板橋星弥

入選 おめでとう
ございます

*大湫宿お休み処

11月の営業は3(祝・土)・4(日)・11(日)・18(日)・23(祝・金)です。

皆様のお越しをお待ちしております。

☆当日(急ぎ)の予約は丸森へお願いします。

TEL : 0572-63-2455

*おしゃべりサロン「こぶし」(100円コーヒー)

11月営業日 第2・第4土曜日

営業時間 AM9:00~AM11:00

営業場所 ふれあいセンター

ご招待券あります

(各2名様)

○『フィンランド陶芸展』

『マリメッコ・スピリッツ展』

期間：11.17~2019.2.24

会場：岐阜県現代陶芸美術館

「ようおいでやーた

赤坂中学校の生徒さん」

中山道観光ボランティアガイドの会

十月二日の秋の好日、中山道赤坂宿にある大垣市立赤坂中学校から、二年生百四十名の生徒さんが大湫宿を訪れました。ガイドの会からは十二名の会員が出動し、宿内の各所に配置して案内に当たりました。

生徒さんたちは和気あいあいと班行動をとりながら、宿内の随所でスケッチをしたり俳句を作ったりと、初秋の大湫宿を楽しんでいただきました。

後日先生から礼状とともに生徒さんたちの俳句を届けていただきましたので、その一部を紹介させていただきます。

なおガイドの会として



は、この縁を大切に、来春赤坂宿の視察研修会を計画しておりますので、ガイド活動に関心を持っていただける皆さんの参加をお願いいたします。

- 爽やかで 温かい場所 大湫宿
- 大湫の 昔は湿地 今こがね
- 大杉を 見上げた先は 秋の空
- 御神木 大湫見守る 大黒柱
- 金色の 稲穂輝く 大湫宿
- 大湫は 笑顔あふれる 宿場町
- 秋深く 大杉のこけ 手が沈む
- 秋風に 繋ぐ偉人の 句碑のぞむ
- 観音堂 母の優しさ 秋深し
- 大杉と 赤坂つなぐ 中山道

大湫中学備忘録(5)

1. 大湫中学校歌

「入学式に校歌を歌わないのはチヨット寂しいな」「そうですよ」「校歌を歌いたいわねー」。

大湫中学を卒業された皆さんに校歌があつたかどうかを訪ねました。

「歌つたかなー?」。

ところが、いろいろ尋ねてみると、ある卒業生が「校歌を歌つたよ」。一年間だけ大湫中学に通学し、一九六二(昭和三七)年に統合後の釜戸中学を卒業した卒業生。「ならば・・・?」とお願ひすると、歌っていただけでした。記憶は明瞭。その年に卒業された同年の方は記憶が不鮮明。歌つた回数が少なかったからなのでしょう。歌い始めれば、同年の大湫中学卒業生の皆さんから、次々に歌詞が口から出てきました。記憶の引き出しにしまい込ま

れていたのでしょうか。不思議なものです。

「昭和三五年頃ではなかったのかなー。校歌を創つたのは」。作詞・作曲者の天野辰代。釜戸中学と合併したのは、昭和三六年四月。歌つた生徒は少ないはずです。「校歌? あつたかなー」といわれるのも、むべなるかなです。

天野辰代が大湫中学に赴任してすぐのことです。当時の校長から『オルガンは弾けるか』と聞かれ『バイエルだけは弾けます』と答えたばかりに中学の音楽を担当することに『大湫小百三十年の歩み』閉校記念誌)なつたと語っています。一九五〇(昭和二五)年度から、天野(旧姓高綱)は、「健康」と「音楽」を担当します。専門でない「音楽」を教えるために、多くの時間を自らの予習のために充てざるを得ませんでした。

「音楽」を教えるようになり、校歌がないことをかねがね不敏に思っていました。天野によって生み出された歌詞は次のようです。

1. 深山の谷間に しんしんと

緑したたる 朝日陰

匂うがごとく 新しく

ここに生まれた 大湫中

文化が泉の 学びの舎

2. 清く静かに かんかんと

自由の鐘の 鳴り渡り

窓にあふれて こだまする

われらが誇りの 大湫中

文化が泉の 学びの舎

この校歌があつたことを知り、歌える人はほとんどいません。忘れ去られようとしています。記憶をたどり、呼び戻していただき、楽譜と歌詞を書き

留めていただきました。それが次の図です。



2. 国策としての植林活動

大量に投下された焼夷弾により日本の主な都市は焼け野原。失われた家屋の再建のため、木材の需要が高まり伐採がおこなわれました。そのため山は裸同然。この状態を一刻も早く脱しようとして全国で植林事業が盛んとなり、成長の速いスギ、ヒノキが大量に植えられました。

一九四九年一月、文部・農林両次

官通達が出されます。「教育上きわめて重要な意義を有する」と学校植林が推奨されると、各教育現場でも植林が積極的に取り入れられました。植林を奨励するため、一九五〇年から「全日本学校植林コンクール」⁽¹⁾も開催。

一九五二（昭和二六）年、新しく泉中学校より新任の梅村七郎校長、土岐小学校より酒井新六教諭が大湫中学に赴任されると、「緑化学習を中心とした学校経営に重点を置き地域社会に立脚した教育に邁進」する経営方針が立てられました。

「禿山に松の植林もした。その松の苗も学校の畑で育てていたと思う」（昭和二八年度卒小木曾（柵橋）小代）。大湫中学校が設立される際、付属の学校農園⁽²⁾が設けられていました。

一九五五（昭和三〇）年、植林コンクールで県下第二位の成績を挙げ、県庁内の表彰式に校長と生徒代表が

出席することになりました。翌年の「昭和三十一年学校植林コンクール」に県下第一位全国第五位の栄誉を受け、全職員並生徒代表二名東京農林省内の表彰式に参列（傍点は筆者）。生徒代表は桐井徹、交告敦子。

全職員と生徒代表の桐井徹らは「農林大臣賞の栄に浴し、初めて見る東京へ、夜行列車で受賞に行きました」（昭和三二年度卒桐井徹）。

東海道線が電化されたのが、一九五六（昭和三六）年でしたから、蒸気機関車がまだ重要な役割を果たしていた時代です。石炭の煙に悩まされ、列車の窓を開け閉めしなければならぬ時代。時間もかかりました。特急でも名古屋・東京間は五時間ほど。大変な長旅です。

「全校生徒で大きな重たい松苗を背負って、長い道のりの釜戸道に植樹し、それが緑の週間のコンクールに入

賞し『ブルーバード賞』をいただき、観光バスで名古屋の中日新聞社、名古屋城等を見学した」（昭和三二年度卒桐井早苗）。「中学生の春、どうゆう訳か、杉の苗が、ドツサリ届き、全員で

植林に行きました。先ず、先生が穴を掘り、適当な間隔で、生徒が並び、植えて行くんだけど、何せ先生の数が少ないので（当たり前）植えるところを取り合ったりして、山のあちこちを駆け回り、しつかり汗をかいていた」（昭和三三年度卒金子（井上）智津子）。

「学習林の植林も体験したが、ひのきを背にしよって、山に登ったもので、日向きや、土のかけ具合など、植林の仕方をおそわったお陰で、植林に関しては、ちよっぴり自負したい」（昭和三五年度卒棚橋和代）。

こうして植林したものの、木材の関税がなくなり安いものが海外から輸入されると、日本の林業は衰退し山

が捨て置かれるようになり、伐採の時期が来ても大量に植えられたスギ・ヒノキは放置され、花粉が人々を悩ませています。

（1） 民間情報教育局のアイヴァン・ネルソンは、学校林の活動が進むよう、新聞社に取り上げてもらうよう提案。1950（昭和25）年春、読賣新聞社並びに国土緑化推進委員会共催による「第一回全日本学校植林コンクール」が開催された。

1957年からは、植林活動のほか環境緑化活動の部門も新設し、学校林を持たない都市部の学校にも門戸が広がった。

（2） 大湫中学校農場の面積、畑23.19 畝(2300²㎡)、水田2.18 畝、原野3.15 畝

3. 少人数だからできた特別教育活動

「クラブは、特に定めは無くして、とにかくバレーとバスケットをやっていた。九人制のバレーでは東濃の大会で優勝したりしていた」（昭和二二年度卒渡辺健蔵）。

「バレーボール、テニス、バスケットなどの球技、陸上競技などけっこう盛んであった。大湫中は人数も少なく一人で幾つもの運動をしていた昼休みの時間、放課後など一生懸命に練習した。コート⁽¹⁾も今のように専用のコートなどなく雨が降ったり冬などは霜で悪くなったグラウンドを石で作った重いローラでグラウンドを整備しながら練習……。土岐郡の大会があり勝って岐阜の大会まで行ったことが思い出される」（昭和二七年度卒渡辺栄一）。

大湫中学は一九五三（昭和二八）年度教育方針を「特別教育活動としてのクラブ活動⁽²⁾に力を入れ」ること

に決めました。

一九五四（昭和二九）年七月十一日、市内中体連のバレーボール大会では、男子が優勝、女子が二位。

「一学年二十人足らずなのでクラブ活動は二つ位兼ねて入る訳です。先輩たちのバレーとバスケットは伝統的に強く市の大会では何時も上位で入賞していたようです。：私達テニス部も市の大会で優勝し、大竹紀子さんなどは後に全国大会の選手として活躍」（昭和三一年度卒桐井徹）されています。

昭和三二年、市内中学校庭球大会女子準優勝（翌三三年優勝）。バレーボールは三位でした。昭和三二年度、教員は七名（校長を含む）、全校生徒は八三名（翌年八〇名）。小規模校です。生徒の人数を考慮した時、これらの成績は驚くべきものです。

大湫小学校と協調・共同する特別

教育活動がおこなわれていました。特筆すべきことです。小規模校ならではの教育活動です。その一つが大湫小学校と合同でおこなった運動会、学芸会です。教員の研修も合同でした。教員は、小・中それぞれの生徒をよく知っていました。

こうしたことを可能にする基礎を作ったのは、新制中学発足以来、昭和二五年度まで校長が小中兼任であったことが、その一つと考えられます。大湫小学校から大湫中学に転任⁽³⁾するケースが少なからずあったことも一つの理由でしょうか。

校長が小中学校の兼務を外れても運動会・学芸会は、釜戸中学と統合するまで合同でおこなわれていきました。小規模校が増える昨今、「統合」へのアンチテーゼを示唆するようにも思えます。

(1) 昭和24年、バレーボールコート新設

(2) 昭和28年度の大湫中学特別教育活動としてのクラブ活動は、文化（珠算、農芸、図工、科学、英語、音楽）。体育（バレー、庭球、バスケット、卓球）の十クラブ

(3) (校長) 森川清爾、奥村重。(教諭) 酒井角蔵、大竹照子、交告良久、高島俊次。(小・中兼任教諭) 森川清爾、奥村重、肥田正雄、天野辰代

オススメ！大湫分室の本

『新にっぽん奥地紀行』

芦原伸：著

イギリスの紀行作家イザベラ・バード。著作の「日本奥地紀行」は明治に書かれたもの。彼女が日本を旅したルートを、鉄道を使って辿ります。現代と百年前を比べながら読みたい本です。

田舎を大事に

有事に備える

今夏の猛暑は記録的で、三十五度を超える日が続いた。人に会えば「暑い」。言えば「暑い」と返って来る。

「よく大湫の様な山の中に住んでいるなあ。」と言われた。それでも「住めば都」と夏の涼しさが取り柄だった。経済的にも日常の負担が大きかった。釜戸駅まで4kmを毎日歩いた。今では歩くことは健康に良いと言われているが、マラソン選手になった者はなかった。病弱な人が丈夫になったという話は聞いたことがある。

昭和三十年に念願のバスが開通し、道路がよくなるにつれて、何処の家でも自家用車が二台、三台と見られる様になった。それにつれて、若者は農業を見切って名古屋の方まで勤めに行くことが多くなって来た。五反百姓では生活が出来ないので当然の成り行

きだった。

都会には働く場所が幾らでもあり、農業をやるより収入ははるかに多かった。幾ら経営を合理化しても設備費や農機具代の支出に、収益は消えてしまった。ましてや、自然災害で被害を受ければ赤字経営になる。畜産経営の場合も、伝染病が発生し、鶏や豚を全部処分しなければならぬ悲惨な状況を目にする事がある。平常、余程収益がなければ、家畜を飼う人が無くなってしまふと心配する。

よく農産物の価格が安過ぎると言う悲痛な声を聞く。他産業の一日の労働賃金を一万円として比較すると、米が二斗近く買える。汗水流して作った野菜も安い。そんな状況の中に、農産物を巻き込んで貿易の自由化が容赦なく進んでいる。

広大な農地を使って生産するアメリカの穀物や畜産物を、もつと買えと迫られている。自動車を買ってくれる

お得意様だが、農産物が生け贄にされては大変だ。カナダの小麦、ブラジルの大豆、オーストラリアの畜産物と、日本の農畜産物は狙われている。大企業の中には、本業以外に農場を作り農産物を生産しようと研究し始めている会社も多くなってきた。

「攻撃は最大の防御」と言われて来た。高くても見た目の良い美味な物なら香港やシンガポールの富裕層に売れている。戦前、緑茶が輸出農産物として好評だった。PR不足をつくづく感ずる。

これからは「安心して食べられる」食物を作れば日本の農業にも生きる道がある。近い将来、必ず到来する食糧不足に備えて、小規模農家の生き残る方策を考えたいものだ。

(文責)

天野長三郎



集まろう会の芋掘り 10/13(土)

いっぱい、掘ったよ！



あれ？
1っかない！！



ん〜っ！
重いぞ！



大収穫だね！



みんながんばったね・・・。

集まろう会の家庭菜園でつくられたサツマイモ掘りに40人余の家族が集まってくれました。子どもたちの満足げな顔が収穫の喜びを物語っています。その後、「花の森」の森さん宅で焼き芋にして食べました。

森さんいつもありがとうございます。そして参加された皆さんお疲れ様でした。

しあ
ら
せ
H30
11月の集まるう会

大湫町コミュニティ
推進協議会
集まるう会

☆ 11月の太鼓は

○大湫の文化祭に出演します。11/3(土) 10時スタート
集合場所：おもたかや 9時30分 → 公民館へ 9時50分
→ 講堂内へ 10時

演目：「証城寺の狸ばやし」「楽」「大杉」
どうぞ、みてください。がんばります!!

○練習日(集まるう会の日です)は . . . (11/17(土) 9時30分
太鼓が終ったら、秋みつけがしたいね。 11/24(土) 9時30分

○夜の練習日 . . . 11/5(月)、11/12(月)、11/19(月) 夜7時~8時

☆文化祭に芋煮会もやります。

みんなで作ったさつま芋が、たくさんとれました。みほさんと一緒に、いただきます。お手伝いも、おねがいします。

☆日吉の文化祭に、太鼓出演しました。初めての舞台、大勢の観客の前で、ワクワクドキドキでしたが、子どもたち、良い体験をしました。日吉町の方々、あたたかく迎えて下さって、「ホッ」とした気持ちになりました。本当にありがとうございました。

☆10月28日釜戸の文化祭に太鼓出演しました。

天候に恵まれ、広い駐車場で、元気いっぱいできました。
童吟幼稚園による「情熱大陸」、釜戸青龍による「やすけしからは」「楽」、そして、集まるう会大湫太鼓による「証城寺の狸ばやし」と、太鼓の交流が、出来ました。
子どもたちの応援ありがとうございました。

丸森だより

10月の丸森から

訪れた方 (10/28まで)

| 町外から | | 町内 | | 合計 | その内 (外国関係) |
|------|------|----|------|---------|---------------|
| 大人 | 幼小中高 | 大人 | 幼小中高 | | |
| 754 | 200 | 87 | 17 | 1058 | 133 |
| | | | | H30,4月～ | 5,888人 |
| | | | | オープンから | 17,101人 |

(最近の様子)

| | |
|-----------------|--|
| 幼小中高生 | 赤坂中2年生(145人+7人) |
| イベント共催 ガイド依頼 | ぎふ17宿お祭り(3人)、ボランティアガイド案内(6人) |
| ツアー・グループ | 可児の団体(8人)、希望が丘高校 K21(11人) 東海自然歩道を歩く(25人)、毎日新聞ツアー(24人) |
| 外国人 | Walk japan (9回)、Raw (6回)、Kumano(2回) |

* 中山道歩き旅の「秋のシーズン」がスタートした。

11月の丸森事業 から、

| 予定日 | 行事・イベント | 丸森関係 | 観光ボランティアとの連携 |
|-------|------------|--------------------------------------|--------------------------|
| 11/ 3 | 細久手・御嵩往来 | 町の文化祭 *そのままジオラマ展示 | 受付案内への応援(玉置) *和宮輿を借りる |
| 11/ 4 | 宗昌寺の稚児行列 | 行列の写真を撮る | |
| 11/10 | オオクテ・ツクルテ① | 施設・宿の紹介 内掛け・輿の展示、記念撮影 | ぎふ17宿共催(安藤・玉置) |
| 11/11 | オオクテ・ツクルテ② | 侍女(2人)の着付け・世話 施設・宿の紹介 内掛け・輿の展示 | 希望者案内(可知) |
| 11/17 | ぎふ17宿大湫～御嵩 | 受付案内(玉置) | |
| 11/18 | JR ウォーク | 侍女(4人)の着付け・世話 施設・宿の紹介 内掛け・輿の展示 | ぎふ17宿共催(水野・酒井) |

お祭りの日の一コマ

お祭りの後の持ち投げ、このタイミングに自転車で中山道走破しているイタリアのお二人さんが通られたので一緒に参加してもらいました。3個ほど拾われお休み処で食べ方を説明しながら味わっていただきました。3個の内1個には景品の札も入っていました。旅のいい思い出になったようです。



お礼の手紙をいただきました

前略

丸森観光案内所で

お便りありがとうございます。予期せぬ心温まるおもてなしを頂き多謝。頂いた資料を手に大湫宿を歩いたが街道を直進したため「長寿杉」を見られず残念。その晩は細久手宿の大黒屋に投宿。翌日は快晴で、炎天下を太田宿まで完歩。なお最終日は台風24号の接近により一日繰り上げ、美濃太田駅より名古屋駅経由で東海道新幹線に乗りし帰途についた次第。次の最終回は太田宿～三条大橋の予定。今まで歩いた中で、大湫宿前後の歩きが一番楽しかった。期せずして丸森観光案内所でお二人にお会いできて感謝。今後ともお二人の素敵な笑顔で中山道を歩く旅人をお迎えして下さいネ。

再見

お礼状!

区長日記

瑞浪市連合自治会は、「災害時における相互応援に関する協定」を締結している埼玉県朝霞市へ、今月の15・16日と視察に行つて参りました。

東京都に隣接する朝霞市は、面積は瑞浪市の十分の一、人口は約十四万人という都市で、関東を防衛する自衛隊朝霞駐屯地があり、再来年のオリンピックには射撃競技の会場が設けられることになっています。

人口は年々増加の傾向にありますが、昨年の自治会加入率は43.7%と減少の一途を辿っており、防災体制に不安も大きく、加入促進活動に熱心に取り組んでおられました。

一方、大湫町におきましては、ほぼ100%の加入状況であり、町内事業所の協力体制を含めまして、地域の課題に取り組む姿勢を示していただいております、改めて感謝の思いを新たに致しました。

農山村の生活環境を維持するためには、不断の努力を必要といたしますが、今後ともご支援いただきますようお願い申し上げます。

区長会長 足立

10月1日 大垣市立赤坂中学校生徒来宿へのガイド活動

3日 交通安全協会釜戸大湫支部高齢者研修会

5日 定例区長会・幹事会

6日 竜吟幼児園運動会

7日 神明・白山神社例大祭

8日 古民家「米屋」整備奉仕作業

10日 多面的機能「彼岸花施肥準備作業」

14日 神田権現神社例大祭

15・16日 連合自治会「朝霞市」視察研修会

17日 釜戸中学校閉校記念事業実行委員会

20日 多面的機能「草刈りボランティア活動」

21日 足又八幡神社例大祭

22日 夢づくり事業「ステップアップ・プレゼン」

24日 瑞浪市長への要望書提出

25日 みんなの農園「脱穀作業」

27日 オオクテツクルテ「看板づくり」、花の森整備

28日 ノルディックウォーキング

30日 釜戸小・中学校合同音楽会

平成三十年十一月行事予定

| 日 | 曜 | 予 | 定 |
|----|---|----------------|---|
| 一 | 木 | 釜戸中学校閉校コンサート | |
| 二 | 金 | 大湫町文化祭 | |
| 三 | 土 | 宗昌寺（晋山式・稚児行列） | |
| 四 | 日 | 定例区長・幹事会 | |
| 五 | 月 | リ・アツプ「ひよも」 | |
| 六 | 火 | 市小中音楽会 | |
| 七 | 水 | おしやべりサロン | |
| 八 | 木 | オオクテ・ツクルテ | |
| 九 | 金 | オオクテ・ツクルテ | |
| 十 | 土 | 財産区全員会議 | |
| 十一 | 日 | 市寿大学合同研修会 | |
| 十二 | 月 | 釜中職場体験（十五日まで） | |
| 十三 | 火 | 町民ゴルフ大会（中仙道GC） | |
| 十四 | 水 | JRさわやかウォーキング | |
| 十五 | 木 | 第二回資源回収日 | |
| 十六 | 金 | 三町財産区合同研修会 | |
| 十七 | 土 | *勤労感謝の日 | |
| 十八 | 日 | 神明・白山神社新嘗祭 | |
| 十九 | 月 | おしやべりサロン | |
| 二十 | 火 | ひなたぼっこの集い | |
| 二十 | 木 | 広報委員会 | |

今月の資源ごみ:11/21(水)不燃ごみ:11/6(火)

編集後記

秋の深まりを感じる季節がやってきました。今年もあと二カ月。なぜだか歳を重ねるごとに一年が早く過ぎていくようで！でも、だからこそ一日一日を大切にしなければいけないのでしようが。秋晴れの爽やかな一日や秋の紅葉はどうか？なんて鑑賞に浸れるのはいつになるのか？あわただしく日々は過ぎて行き、それでも季節はめぐり…。ともあれ、皆様も風邪などひかれないよう、体調管理に気をつけてお過ごしください

・・・y

編集発行：大湫町コミュニティ推進協議会 広報委員会
 平成30年11月1日 瑞浪市大湫町 422-1 TEL.0572(63)2360
<http://okute-shuku.jp/>